



TOHOKU
UNIVERSITY

2025

東北大学
大学院教育学研究科・教育学部
Graduate School of Education / Faculty of Education

遊びつて楽しい!

あと80年じゃ足りないほど。





TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院教育学研究科
東北大学教育学部

目次 CONTENTS

数字で見る東北教育

03 数字で見る東北教育

教育学研究科の紹介

04 生涯教育科学コース
教育政策科学コース
グローバル共生教育論コース

05 教育情報アセスメントコース
教育心理学コース
臨床心理学コース

教育学部の特徴と学習の流れ

06 教育学コース
教育心理学コース

東北大学教育学部・
大学院教育学研究科に決めた理由
07 東北大学教育学部・
大学院教育学研究科に決めた理由

学生インタビュー

08 学生インタビュー

施設紹介

10 図書室
コンピュータ実習室
リフレッシュルーム
実験室

データで見る教育学部・教育学研究科

11 教育学部・教育学研究科の在学者数
教育学部・教育学研究科でとれる資格・受験資格
学部卒業生・大学院(修士/博士)修了生の進路

取り組み

12 心理支援センター
臨床心理相談室
発達・学習心理相談室
災害心理支援室
遠隔支援チーム

13 先端教育研究実践センター
国際シンポジウム・提携校
AEL COURSE

学生支援制度

14 各種奨学金制度
TA・RA制度
日本学術振興会特別研究員制度
博士研究員制度
東北大学学際高等研究教育院制度
長期履修制度

論文・研究紹介

15 論文・研究紹介

東北大学教育学部Q&A

16 東北大学教育学部Q&A

教育という営みを 学際的に探究し よりよい未来の教育を デザインする

小嶋 秀樹

KOZIMA HIDEKI

東北大学
大学院教育学研究科長・教育学部長

もしも教育がなかったら、私たちの世界はどうなっていたでしょうか。バスも電車もなく、インターネットもありません。誰も文字を読めず、お金の計算もできません。いや、本もお金も存在すらしなかったでしょう。

教育とは、人類にしかみられない営みです。また、人類であれば、ジャングルの奥深くや極北の地でも、大人が子どもを教え、子どもは大人から教わろうとします。そのような積極的に教える・教わるという活動によって、人類は個々人の発明・発見を共有し、世代を超えて継承することで、豊かで多様な文化をつくりあげてきました。

そのような教育という営みが、どのような歴史をもって発展し、どのような制度によって動いているのか。貧困や紛争によってどのような影響を受けるのか、どう対処すればよいのか。また、教える・教わるという活動を支える人の心理はどのような仕組みをもっているのか、発達障害などでそれがうまく働かない場合はどうなるのか、どうすればよいのか。心を病んでしまった人にはどのようなサポートができるのか。生成AIによって教育はどう変わるものか、変わるべきなのか。

これらの課題を、脳科学・情報科学を含めた学際的なアプローチで解き明かし、そこから未来の教育をつくりあげていく、それが東北大学教育学部のミッションです。あなたもこの知的冒険にご一緒しませんか?



WEBサイトで
学部長挨拶を見る



2

THE日本大学ランキング

第1位

※「Times Higher Education (THEイギリスの高等教育専門誌)」
によるTHE日本大学ランキング2023

東北大学設立年

1907年

(東北帝国大学創立)



敷地面積
約 2,200 万m²

※「東北大学概要」掲載データ
(R5.7.1現在で所有:21,904,883m²)



附属図書館蔵書数

本館(教育学部と同じキャンパス)の蔵書数

図書 **2,884,912 冊**

雑誌 **43,713 種類**

※「東北大学概要」掲載データ(R5.3.31現在)

数字で見る 東北教育

Graduate School of Education / Faculty of Education in numbers

数字で見る東北教育について
詳しくは[こちら](#)



教育学部設置

1949年

教育学科、学校教育学科、
特殊教育学科、2年制教員養成課程



教育学部学生数

305名

R6.5.1現在

男女比 **45:55**



教育学部教員数

41名

R6年度

教員と学生の比率 **7.41**



学術交流協定締結校 **19 校**



教育学部1学年学生数
74 名

R6年度学部入学者数

男女比 **47:53**



Graduate School of Education / Faculty of Education | 3



生涯教育科学コース

Sciences of Lifelong Education

人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを研究する手法を学ぶ

持続可能で公正な社会の形成に資するため、生涯にわたる人間形成と教育のあり方について、原理的、巨視的、社会的な視点から深く理解し、知識基盤社会、生涯学習社会に必要な洞察力、企画力、実践力を有する人材を育成することを目的としています。具体的には、教育を「人間形成」のプロセスとして広くとらえ直し、学校という制度化された学びの場のプロセスだけでなく、人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを、哲学、歴史、社会学、文化人類学の視点から研究する手法を学ぶことができます。

Faculty Members

甲斐 健人 教授・スポーツ文化論	八鍬 友広 教授・人間形成論	李 仁子 准教授・人間形成論
石井山 竜平 准教授・社会教育学	澤田 哲生 准教授・人間形成論	鷺谷 洋輔 准教授・スポーツ文化論



教育政策科学コース

Education Policy and Social Analysis

政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決能力を育成

財政危機や少子高齢化とともに民族・文化の多様化が進む国々では、効率的な資源配分だけでなく異質かつ多様な人びとの公正な待遇という観点からも教育政策を考えていく必要があります。本コースでは、教育社会学、教育行政学及び比較教育学の学問領域を「教育政策科学」という共通の枠組みのもとに統合した教育プログラムを提供することで、上記のような政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決に求められる、幅広い視野からの課題発見能力、高度な分析能力及び批判的思考力をバランスよく備えた人材を育成していきます。

Faculty Members

青木 栄一 教授・教育行政学	島 一則 教授・教育社会学	福田 亘孝 教授・教育社会学
井本 佳宏 准教授・比較教育学	後藤 武俊 准教授・教育行政学	



グローバル共生教育論コース

Global Education

グローバル化する社会における

新しい教育の実践と研究ができる人材を育成

グローバル化する世界における複合的で多様な課題に対応し、持続可能な社会を構築するための新しい教育のあり方への変容が求められています。本コースでは、学校教育、成人教育、国際教育開発、多文化教育という学際的な観点から、知識伝達型のこれまでの教育を問い直し、価値観の異なる人々と協働しつつ「正解のない」新たな状況に当事者意識を持ち対応できる教育や実践を探求します。本コースでの学びを通じ、グローバル化する社会における教育の課題を、ローカルな現場にも立脚しながら重層的に把握し、多様性の尊重、公正、社会正義といった現代社会に求められている価値観や倫理観に基づき分析し、実際的な問題解決に貢献できる専門能力を有する研究者と実践者を育成します。

Faculty Members

谷口 和也 准教授・学校教育論	松本 大 准教授・成人教育論	劉 靖 准教授・国際教育開発論
末松 和子 教授・多文化教育論 (協力講座教員)	高松 美能 准教授・多文化教育論 (協力講座教員)	渡部 由紀 准教授・多文化教育論 (協力講座教員)



教育情報アセスメントコース

Educational Informatics and Innovative Assessment

学びのイノベーションを視野に入れアセスメントの基礎を固める

現代の教育・学習環境のデザインにあたっては、すべての人びとに開かれた学習機会の提供という観点からInformation and Communication Technology(ICT)のより発展的かつ有効な導入が求められています。そこでは、ICTを駆使した教育プログラムの開発だけでなく、そのプロセスや効果の検証・アセスメントが重要になってきます。本コースでは、日本社会の成熟化、少子化、価値の多元化が進む知識基盤時代の教育にふさわしい、学びのイノベーションを視野に入れつつ、アセスメントの基礎を固め、客観的なデータ・根拠にもとづいて教育を測定し評価するため必要な専門的能力・スキル・知識を修得した人材を育成していきます。

Faculty Members

有本 昌弘 教授・教育評価測定論	熊井 正之 教授・教育情報デザイン論	熊谷 龍一 教授・教育評価測定論
小嶋 秀樹 教授・教育情報デザイン論	久保 沙織 准教授・教育評価測定論	佐藤 克美 准教授・教育情報デザイン論
中島 平 准教授・教育情報デザイン論	松林 優一郎 准教授・教育評価測定論	伊藤 文人 講師・教育情報デザイン論
倉元 直樹 教授・教育情報デザイン論 (協力講座教員)	宮本 友弘 教授・教育情報デザイン論 (協力講座教員)	佐藤 智子 准教授・教育評価測定論 (協力講座教員)



教育心理学コース

Educational Psychology

教授・学習や人間発達のしくみ

その支援ニーズを心理学的観点でとらえる

教育心理学における「教育」とは、広く、人と人がかかわる場面の問題としてとらえることができます。例えば、分数の掛け算につまずく小学生にどのように教えたらいののか、なぜ中学生の非行発生率は他の世代より高いのか、自閉スペクトラム症などのコミュニケーションに困難を抱える子どもたちをどのように支援していけばよいのか、などです。本コースでは、こうした教授・学習や人間発達のしくみ、ならびに発達過程における障害や支援ニーズに対して、心理学的観点から多面的・多角的にとらえ、そのメカニズムを明らかにすることで、その理論および実際の心理的支援や教育的支援を実証的手法により開発できる人材、ならびに心理専門職を養成する人材を育成します。



Faculty Members

神谷 哲司 教授・発達心理学	工藤 与志文 教授・教授学習心理学	長谷川 真里 教授・発達心理学
野口 和人 教授・発達障害学	佐藤 誠子 准教授・教授学習心理学	横田 晋務 准教授・発達障害学



臨床心理学コース

Clinical Psychology

心理専門職として

広く社会に貢献できる人材を養成

子どもや成人をめぐる心理社会的問題を見ると、学校における不登校やいじめの問題、度重なる災害による問題、虐待やハラスメントなど家庭や組織での問題など様々な領域で、その深刻さを増しつつあります。本コースでは、様々な領域において心理的問題を擁する方々やその家族に対する援助についての新たな知見を見出す研究者を養成し、また、相談や援助の業務に従事する公認心理師や臨床心理士の受験資格を取得し、心理専門職として、広く社会に貢献できる人材を養成します。

Faculty Members

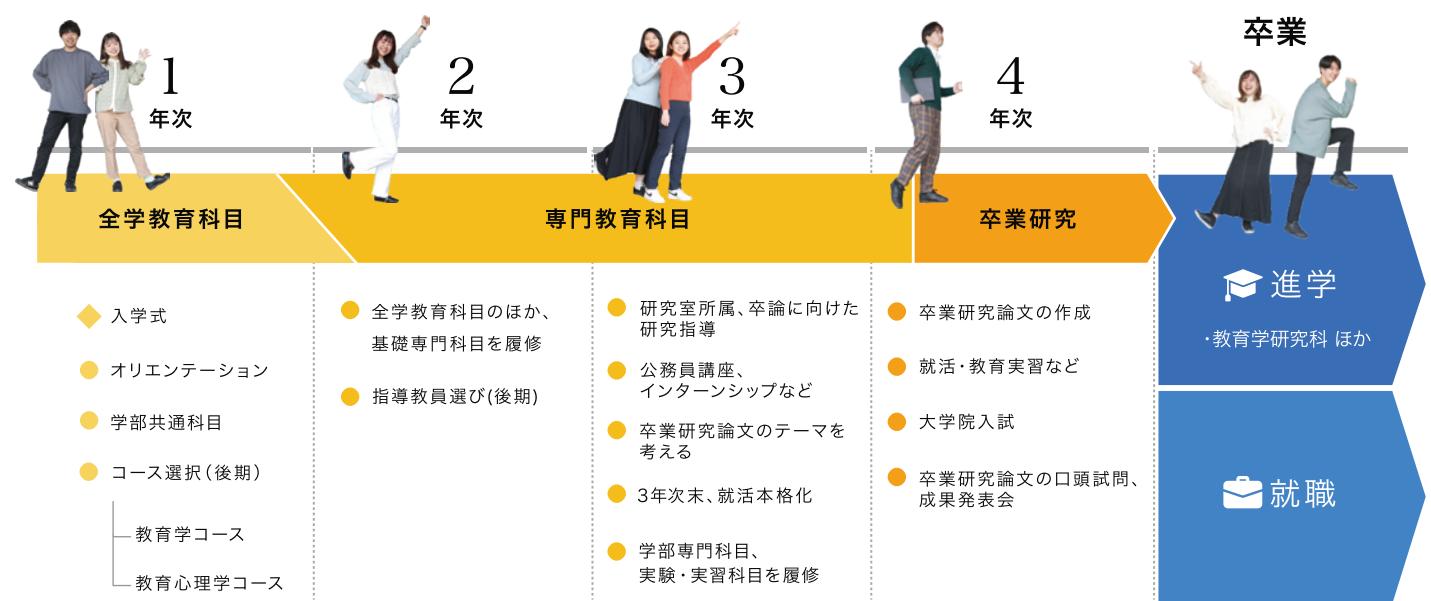
若島 孔文 教授・臨床心理学 ・家族心理学	安保 英勇 准教授・臨床心理学 ・コミュニケーション心理学	本多 奈美 准教授・臨床心理学 ・精神医学
吉田 沙蘭 准教授・臨床心理学 ・医療心理学	梅田 亜友美 助教・臨床心理学 ・認知心理学	前田 駿太 准教授・臨床心理学 ・生理心理学



教育学部の特徴

東北大学教育学部では、4年間を通じた、柔軟で一貫性のある教育プログラムを実施しています。1年次においては、全学教育科目を中心としながら、幅広い教養の形成を行います。2年次以降、専門科目の授業を受講していきます。その際、「教育学コース」と「教育心理学コース」のいずれかを選択することとなります。2年次の後期の間に指導教員を決定し、3年次から研究指導が開始されます。これらをふまえて、4年次には卒業研究を行います。

学習の流れ



1年次後期 コース選択

教育学コース

Studies of Education

教育の思想・歴史・組織・制度や、教育の内容・方法・組織(学びのイノベーション含む)と社会諸制度との関わりなど、多面的な教育の諸現象について、教育学および教育に関連する諸学問の内容を学び、自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・フィールド調査・実験・社会調査などを行い、教育学の研究方法を修得します。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。



教育心理学コース

Educational Psychology

教育や発達・適応に関する諸現象について、人間の行動・心理的状態に関わる側面から、心理学的な概念や理論を学び、教育や発達・適応上の諸問題を解明するために自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・行動観察・実験・質問紙調査などを行い、ICTリテラシーなどを学びます。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。また公認心理師のためのカリキュラムも提供されています。



東北大学教育学部・大学院教育学研究科に決めた理由

Reason

先輩が教える

東北大学教育学部・大学院教育学研究科の



\ここが良い! /

先輩の声 01

指導が手厚いところが魅力的!

学校教員とは異なる形で教育に関わる仕事がしたいと考えていたときに、教育に関わる事柄を幅広く研究対象とする東北大学教育学部の存在を知りました。少人数の学科に対して先生の人数が比較的多く、指導が手厚いところが魅力です。

● 学部生

先輩の声 02

学生支援制度が豊富で研究に没頭できる!

東北大学では、研究第一のもと、制度面、金銭面でさまざまな支援制度が設けられています。将来、研究者になりたい私にとって、これほどの環境はありません。さまざまなバックグラウンドを持つ多様性あふれる人が集まるキャンパスで、有意義な時間を過ごせています。

● 大学院生

先輩の声 03

社会に出ても有用なスキルが身に付く!

私は、文系的興味を理系的手法で解決する、文系理系を問わないような研究に興味があります。東北大学教育学部はそのための研究室や講義等の教育環境が充実しており、研究に取り組みながら、社会に出ても有用なスキルを効率的に身に付けられる環境です。

● 大学院生

充実した研究環境

- 研究したい分野をリードする先生が在籍していた。
- 同じように教育分野に関心のある学生と交流する機会が多いので研究に没頭できる。

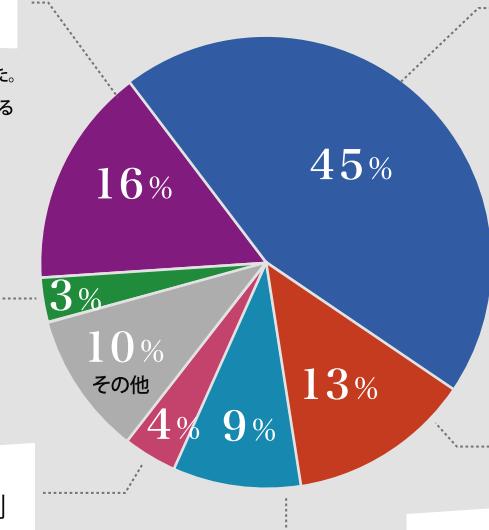
国際色豊かな環境

- 国際開発教育において最先端の研究ができるとともに、充実した教育環境が整っている。

進学や就職に有利

- 教育学研究科は、公認心理師の受験資格を取得できる大学院であり、対象が子どもだけでなく、人間の生涯教育について学べる。

2024年東北大学
教育学部・大学院教育学研究科
学生対象のアンケート結果より集計



魅力的な教育内容

- 教育を多角的に幅広く学べるので、自分の選択肢を狭めなくて良いなと思った。
- 教育学そのものを学ぶ授業が充実しており、さまざまな分野が展開されている。加えて臨床心理士や公認心理師の資格取得のための勉強もできる。

自分にあった入試内容

- 実家から通いやすく、入試も良問であったため志望した。

高い知名度

- 旧帝国大学ということもあり、同じ東北出身として東北を支えている一番大きな大学。最先端の研究や留学生との交流が多いところも魅力を感じた。



Interview

小松山 恵華

KOMATSUYAMA REIKA

教育学部教育心理学コース4年
岩手盛岡第一高校 出身

全学教育で広く学び、専門教育で多角的に学ぶ。
教育と心理の知識を生かして子どもたちの心の悩みを支援したい。

01 東北大学教育学部について

教育学と心理学の両方が学べる環境

私は今、教育心理学コースに所属しています。教育学や心理学に興味を持ったのは、小学生の頃に経験した東日本大震災がきっかけです。心が弱ってしまったとき、学校に心理専門職の方が来て、心をリラックスさせる筋弛緩法などを教えてくださいました。その頃から、自分も同じように子どもたちのさまざまな心の問題に寄り添い、力になれるような存在になりたいと思い始めたのです。

そこで、教育学と心理学の両方が学べる大学を探していました。今まさに、東北大学教育学部で自分の興味関心のある分野を探究できています。



03 将来の目標

教育心理学での学びを公務員になって生かしたい

私の今後の目標は、公務員試験を突破し、家庭裁判所調査官や法務技官として働くことです。どちらの職も、人間一人ひとりの心について理解し、支援、援助していくことが求められます。また、人の人生そのものに大きく関わる仕事です。東北大学教育学部で得ることのできた専門的知識や経験を糧にして、実際の現場で生かしていきたいです。

02 東北大学教育学部の魅力

幅広い視野と多角的な視点が学べる

東北大学教育学部の特徴は、学部1~2年のうちは「学部共通科目」だけでなく、「全学教育科目」で学部の垣根を超えた幅広い教養が学べるところです。他学部の人の考え方につれることができ、視野が広がりました。

そして、3年になるとより専門的な講義が増えていきます。私は「教育心理学コース」に進み、主に臨床心理学について学んでいますが、「教育学コース」では教育の歴史や制度などについて学ぶようです。

「教育学」には想像以上に多角的なアプローチ法があることに驚きましたが、人間の生涯そのものを探究する学問ならではだと思います。

国際的な学びのチャンスが多い

学内には交換留学生が多く、グローバルなコミュニケーションの機会が豊富です。私も、留学生の友人から英語や中国語を教えてもらったことがあります。また教育学部では、国際社会における教育問題を研究する講義もあり、私の友人は授業の一環で海外へ行きとても良い刺激を受けたようでした。意欲があれば、国際的な学びや経験を積めるチャンスが多い環境だと感じます。

Timeschedule
小松山さんのタイムスケジュール

2年生のある日

1・2年次は全学教育科目や教職科目の授業が多いです



8:00	起床
8:50	1限目「教育相談・生徒指導」
10:30	2限目「教育統計学」
12:00	学食で友人と昼食
13:00	3限目「英語」
14:40	4限目「教育相談」
16:20	5限目「日本語学概論」
18:00	友人とカフェで勉強
20:00	帰宅後、課題を終わらせて自由時間
24:00	就寝



川内キャンパスは地下鉄の駅が近いので、街へのアクセスが楽。講義後はカフェ巡りを楽しみます。

3年生のある日

3年次には教育学コースと教育心理学コースに分かれより専門的な講義が増えます



8:30	起床
10:30	2限目「スポーツ文化論講義」
12:00	学食で昼食
13:00	3限目「教育心理学実験」
14:40	4限目「教育心理学実験」
17:00	カフェでアルバイト
22:00	帰宅・自由時間 心理学のレポートをまとめたり公務員試験の勉強をしたりします
25:00	就寝

空き時間には所属する研究室に立ち寄ることも



取り組み 心理支援センター

Psychological Support Center

心理支援センターについて
詳しくはこちら



取り組み 先端教育研究実践センター

Center for Innovation in Educational Research and Practice

先端教育研究実践センターについて
詳しくはこちら



研究科における心理学の基礎的研究や臨床研究の成果を地域社会に還元し、個人、家族、地域あるいは災害被災者に対する相談援助を行うとともに、公認心理師・臨床心理士養成のための実践的教育訓練を行うことを目的としています。センターには、臨床心理相談室、災害心理支援室、発達・学習心理相談室が置かれており、2020年度末に終了した震災子ども支援室“S-チル”的事業内容を、緊急支援・被災者支援・震災・防災心理教育として災害心理支援室で継続しています。また、既存の臨床心理相談室の支援体制を発展させ、さらに多様な専門性(発達・学習相談、遠隔支援など)を総合的に活用できる支援体制を構築しました。



臨床心理相談室

Clinical Psychology Counseling Office

子どもの不登校やいじめ問題をはじめ、職場や生活でのストレスや葛藤を持つ人々やその家族に対して、心理査定を含めた臨床心理面接を実施し、地域社会に貢献するとともに、臨床心理士(臨床心理士養成指定大学院1種)および公認心理師を養成するための内部実習機関です。構成員は、臨床心理学コース教員を中心とされています。

STAFF スタッフ

安保 英勇 室長・准教授
前田 駿太 副室長・准教授
若島 孔文 教授
本多 奈美 准教授
吉田 沙蘭 准教授
梅田 亜友美 助教
シュレンベル レナ 助教

発達・学習心理相談室

Learning Psychology Counseling Office

発達の問題や気がかり、学習のつまずきなど、乳幼児期から青年期に至るまでの子どもとその保護者への対応の仕方に苦慮する教育・福祉等諸領域の専門家に対して、より専門的なコンサルテーションを実施し、子どもとその保護者に対して求められる発達・学習支援を行います。構成員は、教育心理学研究科の教員を中心とされています。

STAFF スタッフ

横田 晋務 室長・准教授
長谷川 真里 教授
神谷 哲司 教授
工藤 与志文 教授
野口 和人 教授
佐藤 誠子 准教授

災害心理支援室

Disaster Psychology Support Office

震災子ども支援室から資料および連携機関を引き継ぎ、(1)災害遺族支援・災害里親支援、(2)緊急支援・被災者支援、(3)災害心理教育を行っていきます。また、災害地域が僻地の場合、遠隔での支援体制を整え、遠隔支援システムを導入します。構成員は、教育心理学研究科の教員を中心とされています。

STAFF スタッフ

若島 孔文 室長・教授
青木 栄一 教授
李 仁子 准教授

遠隔支援チーム

Remote Support Team

引きこもり者、介護者家族、遠隔地在住者等遠隔で支援を求める方への幅広いご相談に応じています。



国際シンポジウム・提携校

International Symposium・Affiliated School



グローバルな研究活動を行う東北大学は、海外の著名大学の研究者との共同研究交流を重視しています。そのような交流を推進するために、東北大学は、2024年4月現在で世界240大学や機関と大学レベルでの交流協定を締結しており、さらに東北大学の単数もしくは複数の部局(研究科や研究所)が独自に462か所の海外の大学や機関と部局間協定を結んでいます。教育学部(教育学研究科)については、右の19の大学・機関と部局間協定を結び、活発な研究交流や学生の相互派遣を行っています。

国際シンポジウム・提携校について
詳しくはこちら



AEL COURSE

Asia Education Leader COURSE

AELは「Asia Education Leader」の略で、アジア、特に東アジアにおける教育課題に対応できる国際的視野をもった指導的人材の育成を目指す国際共同教育プログラムです。

AEL COURSEについて
詳しくはこちら



AELCと「国際実践研究I&II



大学・機関と部局間協定先一覧

- ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション
- 明知大学校社会教育大学院
- ヨーク大学教育学部
- 台東大学師範学院
- ウツノ大学校保健福祉学部
- 南京師範大学教育科学学院
- 国立台湾師範大学教育学院
- 高麗大学校師範大学
- 国立政治大学教育学院
- 杭州師範大学教育科学学院
- 北京師範大学教育学部
- 南京師範大学心理学院
- 華東師範大学教育科学学院
- 華東師範大学心理与認知科学学院
- ソウル大学校師範大学
- 東北師範大学教育学部
- 国立インドネシア教育大学教育学部・大学院研究科
- UNESCO パンコク事務所
- 天津大学教育学部



各種奨学金制度

経済的な応援が心と暮らしをいきいきと豊かにします。

● 奨学金制度

優秀な学生のために、日本学生支援機構による奨学金（第一種・無利子、第二種・有利子）の貸与があるほか、令和2年度からは修学支援新制度により学部学生を対象とした給付型奨学金が始まりました。その他、地方公共団体・民間奨学金団体による奨学金の貸与や給付の制度があります。経済面のしっかりした支援体制で、研究者養成を助けます。どの奨学金も学業成績の優秀な学生、そして経済的理由で修学困難な学生に資格が与えられます。学生生活を円滑に送るため、大切なライフプランニングに役立つことができます。

● 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、その他、突発的災害等やむを得ない事情があると認められた場合には、授業料の全額、3分の2の額、半額又は3分の1の額を免除する制度があります。

日本学術振興会特別研究員制度

創造性豊かな研究者養成のために研究奨励金を支給します。

大学院博士課程在学者及び修了者などで優れた研究能力を備え、大学その他の研究機関で研究することを希望する研究者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。特別研究員になると、主体的に研究課題や研究の場などを選びながら、研究に専念する機会を持つことができます。わが国の学術研究の将来を担う、創造性に富む研究者の養成を目的としています。

東北大学学際高等研究教育院制度

新領域を創造する若手研究者を支援します。

東北大学学際高等研究教育院とは、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、新しいタイプの異分野融合からなる新領域の学際的研究を創造し、世界トップレベルの研究を目指す若手研究者養成のため、東北大学独自の支援組織です。奨学金支給、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援を受けられるほか、研究計画に見合った研究費や研究環境又は国際インターンシップのための助成、ポスドクの雇用等の支援事業を行っています。また、教育学研究科に所属しながら「修士研究教育院生」「博士研究教育院生」に採用されることで、奨学金や研究費の助成が受けられます。

TA・RA制度

未来の教育指導者、若手研究者をしっかりとサポートします。

● TA(ティーチング・アシスタント)

TA制度は、教育学部・博士課程前期2年の課程の授業をアシストするシステムです。成績優秀な大学院生が担当し、手当(時間給)が支給されます。学生を教育指導できる実践トレーニングの経験としてのメリットに加え、この体験は現実世界と理論とを融合させる格好の機会にもなります。

● RA(リサーチ・アシスタント)

RA制度は、博士課程の大学院生が研究科の研究プロジェクトに参画し、研究に必要な補助を行うシステムです。資格は博士後期3年の課程に在籍する優秀な学生に与えられ、手当(時間給)が支給されます。教員とマンツーマンで、研究の進め方や理論構築のノウハウなどを吸収できます。大学側の研究支援体制を強化するとともに、若手研究者の養成をサポートする充実した内容となっています。

博士研究員制度

就職前のポスドクの研究環境を保障します。

博士研究員は、教育学研究科又は教育情報学教育部の博士課程3年の課程を修了した者を対象に研究者としての地位を保障する制度です。博士研究員は、授業料を払わずに本学の施設・設備の使用、指導教員による指導を受けることができ、さらに本学の研究者としてさまざまな研究費に独自に応募することができます。

長期履修制度

個々の事情にもとづいた修業年限の設定が可能です。

長期履修制度は、職業に従事している等の個人的事情により修学に専念できない大学院生を対象に、標準修業年限(前期課程2年・後期課程3年)を超えて在学することを認めるシステムです。授業料も標準修業年限分の納入額のみとなります。この制度は、より多くの人びとに大学院教育の機会を提供することがねらいです。



学生支援制度について
詳しくはこちら



教育学研究科

令和5年度 博士論文

- クリティカルリーディングスキルを育成する大学英語読解授業の開発・実践とその評価
- 現代に息づく大相撲の「伝統」に関する文化人類学的研究
- 中学生の不登校行動の維持要因の軽減を目指した解決志向短期療法に基づくプログラムの開発に関する研究
- 鉄道における自動運転化の課題と対策について—安全・安心な自動運転社会を目指して—
- 学制期における「書画」についての研究—近代日本における造形教育の起点とその内容—
- 子どもの精神的不調に対して親が行う支援に関する臨床心理学的研究
- 児童のタブレット利用時における教師の健康配慮の改善に関する研究—視認性の確保を中心に—
- チャイルドシート使用普及に向けた教育プログラムの開発
- COVID-19における予防行動とメンタルヘルスに関する臨床心理学的研究—ヘルスピリーフモデルの検討から—
- 共調性による評価判断力の育成と自己調整

令和5年度 修士論文(抜粋)

- 共同体の形成と「構想力」—ハナン・アーレントの判断力論を主題として—
- 小規模特認校制度における子ども・保護者のニーズ充足メカニズムに関する質的研究
- 短期オンライン留学プログラムの学習効果—グローバル人材の育成能力に着目して—
- 國際共修授業における留学生の学習動機づけの変容—自己決定理論に基づいて—
- 日本語話者の項省略判断に関するアノテーションとモデリング
- 大学入試における志願者本人記載書類の類型と高校教育現場への影響—高校教員への質問紙調査から—
- 学校現場の多職種協働における革新的な意思決定法の提案
- 青年期におけるネットいじめに対する認識と加害行動との関連
- 入眠前覚醒が入床先延ばしに及ぼす影響—総括調査による検証—
- 自己複雑性とアイデンティティとの関連—青年期における自己の多元化の傾向の観点と総括的検討から—

博士論文・修士論文について
詳しくはこちら



教育学部

令和5年度 卒業研究(抜粋)

- 地方自治体における新任の臨時の任用教員への研修の現状と今後の可能性—初任者研修との比較から—
- オンラインにおける会話参加者全員のタイピングによる情報保障の課題と便益の検討
- サンプルサイズ設計における検出力に基づく方法と信頼区間に基づく方法の比較
- 義務教育段階のスクールソーシャルワーカーによる予防的介入の実態とその普及・抑制要因の分析
- アバターデザインの自由度がダンスの楽しさに与える影響
- 生活満足度の規定因とその構造～パス解析を用いた検討と都市政策への応用～
- インターネットに居場所を求める若者
- LLMによる和文英訳問題の自動採点の評価と応用可能性の検討
- 地域学校推進員の配置状況と機能の解明
- ジェンダーレスメイクの心理・社会的影響—多様性に着目したメンズメイクアップ理論の構築—
- 長期留学促進に対して短期留学が与える影響とそのメカニズムの検証
- 蔵王古道をめぐるエスノグラフィー：習合・身体・手作り
- 人間形成における愛の役割について—エーリッヒ・フロムの『愛するということ』を巡って—
- 青年期後期における認知の柔軟性および援助要請スタイルと適応感との関連
- 児童期における友人との関わりとECとの関係
- 大学生の推し活と推し疲れに関する研究
- 過剰適応者の対人不安ビリーフ及び友人関係についての検討
- 主観的ストレスの単一項目尺度の妥当性
- ひきこもり者を持つ家族のソーシャル・サポートと受療行動に関する研究
- 憶みの場面と自尊心が援助要請における援助者の切り替えに及ぼす影響

卒業研究について
詳しくはこちら



Q1 東北大学の教育学部と他の大学の教員養成学部とは、どこが違うのですか？

A1 国立大学の教育学部には2種類あって、教員養成を目的とした教育学部と、教育学や心理学の研究・教育を目的とした教育学部があります。東北大学の教育学部は後者のほうです。

Q2 それでは、東北大学の教育学部では教員になれないのですか？

A2 中学校の社会、高等学校の公民の免許状が取れます。
その他にも、他学部の授業を履することで、国語や英語、数学、理科の免許状も取得できます。

Q3 教育学部に行けばカウンセラーになれるのですか？

A3 カウンセラーといつても様々な資格がありますが、教育学部/教育学研究科では「公認心理師」や「臨床心理士」に対応したカリキュラムを提供しています。
公認心理師の受験資格を得るためにには、教育学部および文学部で開講される必修科目を履修し、卒業後に臨床心理学コースの修士課程を修了するか、認可を受けた施設で2年間の実務経験を積む必要があります。また臨床心理士の受験資格を得るためにには、臨床心理学コースの修士課程を修了することが必要です。いずれの場合も、教育学部で関連分野について幅広く学んだ上で、大学院や実務研修機関でさらに専門的な学びを深めることになります。

Q4 教育学部で学ぶ心理学と、文学部で学ぶ心理学では、どこが違うのですか？

A4 文学部では実験心理学や社会心理学の基礎的問題の解明に取り組んでいます。具体的には「視覚認知心理学」「感情心理」「ストレス、化粧、顔、香りに関する心理学」「地域社会における資源交換」「異文化体験」などが研究されています。
一方、教育学部では、広い意味での「教育」、すなわち、人と人とのかかわりに関する心理学が中心です。具体的には、教える、学ぶ、発達する、支援するといった行動やその心理学的実践をテーマとしています。主だった心理学の領域としては、「教育心理学」「学習心理学」「発達心理学」「障害児者心理学」「臨床心理学」などが学べます。

Q5 東北大学の教育学部を卒業すると、何になれるのですか？

A5 もちろん教員を目指す人もたくさんいますが、それ以外に企業や教育行政、矯正施設や福祉施設の中で自分の学んだ教育学・心理学を生かす人も大勢います。さらに、東北大学教育学部は、数少ない「大学院大学」の教育学部ですから、さらに高度な専門的能力を身につけるために大学院に進学する人も多くいます。